

生衛業支援セミナー（講演内容）

講演2 「ゆとりある暮らしのためのライフプラン設計と資産形成」

講師 株式会社ファイナンシャルファシリテーターズ

代表取締役 加藤 桂子 氏



現在、個人・法人のご相談にのる傍ら、セミナー講師の他、テレビの「イチオシ」や「どさんこワイド」などで、ふるさと納税等の生活への活用方法や資産形成に関するコメンテーターを務めるほか、北海道新聞のコラムなどの執筆活動など多方面でご活躍されています。

講師紹介

加藤先生は、東京外国語大学をご卒業後、大手企業を対象とした語学講師を務められ、退職後にファイナンシャルプランナーの資格を取得。その後外資系金融機関に勤務されていました。

2010年に、「大切な人がより豊かになるために、選り抜かれた情報と優れたアイデアを」、モットーに現在の株式会社ファイナンシャルファシリテーターズを設立されました。

講演内容

▶ Slide.01



▶ Slide.02

誰もがお金に関して全く心配を感じたことがない方は、いないと思います。家庭の話ですが、毎月どうしても赤字になってしまう。子供の教育費が準備できるか心配。住宅ローンは返して

こんな風に感じたことはありませんか？

毎月どうしても赤字になってしまふ

子どもの教育費が準備できるか心配だ

住宅ローンは返していけるだろうか

老後資金が足りないかもしれない

▶ Slide.03

お金の不安を減らすには

短期と中長期に分けてお金の流れをとらえることが必要です



▶ Slide.04

短期 毎月の家計管理



いけるか。老後資金が足りないかもしれないと心配されている方も多く。個別相談でも色々な方がご相談に来られます。共働き世帯のご相談も結構受けます。家庭の家計管理は、昔は奥さんが全部夫の給料を預かり家計管理していることが多かったのですが、いま多いのは、夫婦共働きなので夫も妻も別々の財布で、生活費をお互い半分ずつ出そうとか、教育費はあなた、水道光熱費は私と、費目別に結構管理されている方も多います。そうすると昔よりちょっと家計管理は難しくなっているかなと思います。皆さんには、お金に振り回されるのではなく、お金をコントロールしてほしいと思います。

お金の不安を減らすには、お金に関しては「短期」と「中長期」に分けてお金の流れをとらえることが必要です。まず短期で言いますと、毎月の家計管理です。いま物価高がどんどん上がっている、これまではやりくりできたけど、いまは赤字になる家庭も多いと思います。

中長期で言いますと、ライフプラン、皆さんが今後どんな大きな支出があるのかということを考えて、それに対してどうやってお金を準備していくかということと、ここで見ていくことが大切です。

まずは、短期の家計管理からです。家計は、パートナーに任せっぱなしの方は多いですが、お金の流れってやはり把握していかないとコントロールできないのです。

家計簿をつけている方も少ないかもしれませんが、いまはスマホの家計簿アプリなど便利なものがあります。是非それらを活用していただければと思います。

毎月の家計管理には、まずは項目別に分けると非常に家計管理が楽になります。

内容としては、毎月出ていくお金が変わる部分の「変動費」、毎月決まった金額が出ていく部分の「固定費」の2つに分けます。

皆さん、節約しないといけないと思うとどこを節約されますか。結構、食費や水道光熱費などで、こまめに電気消したり、あんまり水道の蛇口をひねらないなど一生懸命な方も多いと思いますが、この変動費は意外と節約しようと思ってもあんまり効果がなく、逆にストレスが溜まったりします。そのため、家計管理に関して固定費の見直しです。

固定費に関して住宅費、教育費、携帯の基本料金、保険、また、車両費として車のローンや税金なども決まった金額が支出されます。このように毎月決まって出ていく部分を見直すことで効果的に家計を改善することができます。

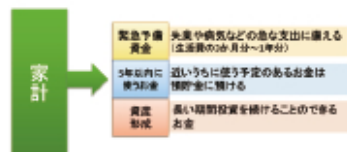
かという、日本人は資産が 1.4 倍になりました。それに対して、アメリカ人は 3.3 倍になったのです。だからお金を持っているだけではだめで、どこにお金を置いているかというのを資産を増やすうえで大事なのです。

こういうお話をすると中には、「いま銀行に置いてある 100 万円を全部資産運用にまわした方がいいですか」と、ご質問も結構あります

▶ Slide.11

資産形成を始める前に

お金の色分けをしましょう



うなお金を除き、できれば 10 年以上運用し続ける、10 年以上置けるお金を資産形成に、資産運用にまわした方がよいということになります。

このようにお金の色分けをしたうえで、ここから税制優遇を使った資産形成方法ということでご紹介をしていきます。

▶ Slide.12

税制優遇を使った資産形成方法

運用方法	税制優遇	注意点
NISA (少額投資非課税制度)	年間40万円以内で 非課税に投資可能	取引頻度と 課税対象は不可
DC (確定拠出年金)	掛け金が全額非課税 運用益も課税あり	課税対象では 引出し不可
iDeCo (個人型確定拠出年金)	掛け金が全額非課税 運用益も課税あり	課税対象では 引出し不可

▶ Slide.13

NISA は、2014 年から始まった制度ですが、今年から全く新しい制度になりました。イギリスでも国民に積極的に資産形成をして欲しいと国が用意した「ISA」という制度があります。この ISA をモデルに日本で作ったので、日本の N を ISA の頭につけて「NISA」というものができました。今年から始まった「新 NISA」とも言われていますが、これは成長投資枠、年間 240 万円まで非課税で投資できます。そして積立投資枠ということで年間 120 万円まで、両方あわせて使えますので、年間 360 万円まで税金からないうえで運用することができます。これ NISA を使用しない場合、どれほどの税金がかかるかというと、増えた分に対して今 20% も税金を取られ

そこで、資産運用を始める前に、まずはお金の色分けをしましょう。

「緊急予備資金」、これはすぐに使えるお金として用意しておかなければいけないお金があります。緊急予備資金としては、これは失業や病気などの急な支出に備えるお金として、いまの皆さんの生活費の 3 ヶ月分から 1 年分と幅が広いのですが、業種によっても変わってくると思います。収入の上下が大きい方は、なるべく長く備えられるのが良いと思います。そして 5 年以内に使うお金として、例えば 2 年後に子どもが大学に進学するとか、近いうちに住宅を建てる頭金などは、投資にまわすべきでないお金になります。このよ

国も、皆さんに資産形成しっかりしていただきたいということで、税金面で優遇している制度をいくつか用意しています。

「NISA 少額投資非課税制度」がまず 1 つ。そして会社によっては「DC 確定拠出年金」もあります。また、私たち全員ができる制度、年金の上乗せ制度として「iDeCo 個人型確定拠出年金制度」があります。

この NISA と iDeCo に関して説明します。

NISA (少額投資非課税制度) って何?

イギリスの ISA (Individual Savings Account: 個人貯蓄口座) をモデルに、日本版として作られた制度



▶ Slide.14

2024年以降NISAで投資できる商品

	つみたて投資枠	成長投資枠
投資商品	① 公募株式投資信託 ② 公募債券投資信託 ③ 公募商品投資信託 ④ 公募REIT投資信託 ⑤ 公募ETF投資信託 ⑥ 公募商品先物投資信託 ⑦ 公募商品オプション投資信託 ⑧ 公募商品先物オプション投資信託 ⑨ 公募商品先物オプション投資信託 ⑩ 公募商品先物オプション投資信託	① 公募株式投資信託 ② 公募債券投資信託 ③ 公募商品投資信託 ④ 公募REIT投資信託 ⑤ 公募ETF投資信託 ⑥ 公募商品先物投資信託 ⑦ 公募商品オプション投資信託 ⑧ 公募商品先物オプション投資信託 ⑨ 公募商品先物オプション投資信託 ⑩ 公募商品先物オプション投資信託
上場株式	購入できない	購入できる
年間投資上限	120万円 (10万円/月)	240万円

▶ Slide.15

代表的な投資商品 それぞれの特徴



るのです。使わないともったいない制度かなと思います。

NISA に投資できる商品には、「つみたて投資枠」と「成長投資枠」の 2 つがあります。

これはそれぞれ金融庁がこの商品は NISA で使えますとある程度ふり分けしたものが NISA です。

つみたて投資枠は、これは毎月積立しかできません。年間 120 万円までなので、月にすると上限 10 万円までとなります。

それに対して成長投資枠は、わりと幅広い範囲で投資することができて、毎月積立も一括購入もできます。スポット購入といって、まとめて 240 万円一度に入れることもできます。

成長投資枠は自由度が高くて、投資信託といって後ほど説明しますが、幅広く投資家からお金を集めて色々なものに投資することもできますし、上場株式、例えばトヨタなどの企業の株を買うこともこの成長投資枠では可能です。両方を使うことが今できるのです。

色々な投資商品がありますが、例えば「株式」。いまお話したトヨタの株、それ以外の企業の株、その会社の株を購入することによって配当を得たり、それから売却益を得たりということがあります。

それに対して「債券」は、国や地方自治体、企業などにお金を貸すことによって返してもらう時に金利を付けて返してもらうというのが債券です。

それ以外にも「投資信託」といって先ほどもお伝えしたように、色々な投資家から幅広くお金を集めて色々な会社の株を買ったり、逆に他に債券等、色々なものに投資するのが投資信託です。

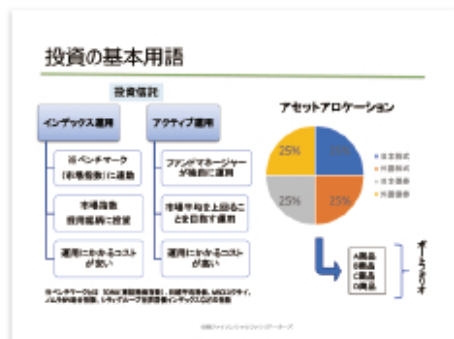
投資信託のちょっと変わったかたちとして、不動産に投資する「REIT」や、株と同じように売買、リアルタイムで売買できる「ETF」もありますが、これから投資される皆さんにおすすめしたいのは、投資信託、ファンドです。

何故かという、ある 1 つの企業に投資する。つまり 1 つの銘柄を買ったとその企業が倒産した時に皆さんに投資

したお金は価値がなくなってしまう可能性があるからです。

そのため、幅広く投資を行う投資信託で投資されるのが良いと思います。

▶ Slide.16



投資の基本用語をお話しします。「アセットアロケーション」という言葉があります。

これはどういったカテゴリに投資するかということです。例えば株式、それから債券、それも日本なのか海外なのかということで、右円グラフのように大きく4つに分けたとします。日本株式、外国株式とか、こんなふうに例えば株と債券で半分ずつ、そして日本と外国で半分ずつということで、投資することもできます。これ皆さん4分の1ずつこんなふうに投資している代表的なものは何かというと、実は私たちの年金です。

私たちの年金の一部は資産運用されています。資産運用しているところは GPIF という機関が運用しています。

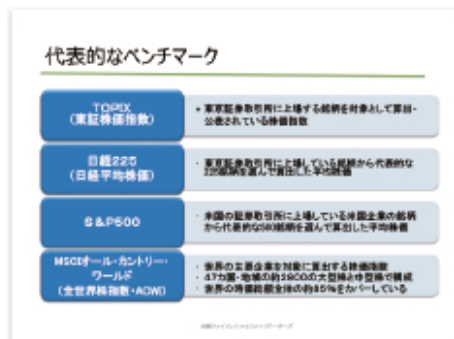
こんなふうに4つのカテゴリに分けて運用して、すごい利益を生んでいます。私たちの年金のこの GPIF、運用実績がどのくらいあるか。運用資産額全体としては245兆円。これが去年1年間で22.67%増えました、額にして45兆も増えました。では、運用を始めてからどのくらい増えたかということ、累積で51兆も増えたのです。そのため、どうやってどの配分で投資していいかわからない方は、年金と同じようにこんな比率で運用されるのも1つの方法かなと思います。

そして投資信託ということで、大きく2つあります。1つが「アクティブ運用」。これは何かというと、ファンドマネージャーという投資先を選ぶ人がいて、この人が独自に色々な企業を選んでくれるのです。色々な企業の経営者にインタビューや調査にも行きますので、このアクティブ運用は「インデックス運用」と比較すると少しコストが高いのが特徴です。「インデックス運用」ですが、これは後ほど説明します市場指数、ベンチマークと言われているものに連動しています。

だから例えば日本の東京証券取引所に上場している株全体に投資したいということだと、例えばトピックスというものがあります。

そういったものに全く同じ動きをするように投資するというのが、インデックス運用ということです。

▶ Slide.17



所に上場している代表的な500銘柄のことです。

オールカンントリーは、全世界指数と言われていて、世界47カ国、地域の2,800の大型株と中型株にまんべん

く投資できるのがこのオールカンントリーと言われているものです。

皆さんどこに投資していいかわちょっと悩まれるなら、インデックスファンドのこういった代表的なベンチマークに投資されるのも1つの方法かなと思います。

▶ Slide.18



次に投資信託の選び方です。どこでどのように比較したら良いかですが、インターネットで色々なホームページで見ることができます。

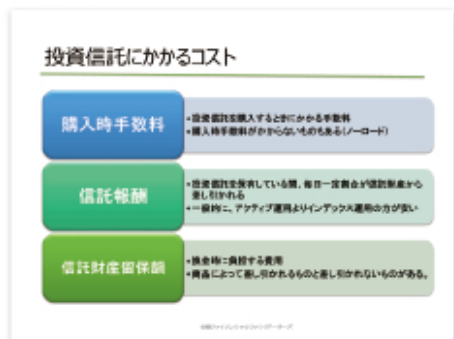
例えば金融機関のホームページ、運用会社、投資信託協会なども、それぞれの投資信託の情報を出しています。それから評価会社として、「カカコム」が投資信託の評価もしています。

商品の詳しい内容は、投資信託の説明書である目録見書や、過去にどのくらいお金が増えたかをみる運用報告書でも確認できます。

ポイントは、何に投資しているのかというファンドの目的、特色、どんなリスクが含まれているかという

ところ、そして過去にどのくらいお金が増えているのかの運用実績、そして手数料、こういったものを比較していくと良いものが得られると思います。

▶ Slide.19



投資信託にかかるコストですが、NISA を始めて例えば毎月積立でも投資信託を買われていくと色々な手数料が引かれます。まず「投資信託手数料」で、毎月買っていく時に手数料がかかる場合があります。

積立投資枠だと購入時手数料がかからないものだけが選ばれていますのでここはかかりません。成長投資枠だとかかってきます。

そして、ずっと投資信託を保有している間は「信託報酬」はかかり続けます。そのため、これが高すぎないかどうか他と比較して、選んでいきます。

3つ目として、「信託財産留保額」で、これは売却する時に手数料がかかる投資信託もあります。

以上3つの、「かかるかからないか」「高すぎないか」というところで比較されると良いかと思います。

▶ Slide.20

よく聞かれるのが、NISA 始めたい、iDeCo 始めたいけど、どこの金融機関を選べば良いのかと。そこで、表を作りました。

ネット証券もいますごく伸びています、SBI や楽天、マネックスとか、色々なところがあります。ネット証券は特徴としては、インターネット上で手続きが簡単にできます。商品のラインアップも豊富です。ただし、すべて自分で手続きをするため、アドバイスがもらえないのが少しデメリットかなと思います。インターネットが得意な方、すぐ口座開設して始めたい方は、ネット証券が向いています。

それ以外に、対面でアドバイス受けたい方は、証券会社、銀行、それからいま金融商品仲介業者という IFA という専門も増えています。アドバイスを受けながら口座開設して始める方には良いと思います。それぞれどんな特徴があってどの人が向いているかということ、証券会社は他の金融機関と比べて選べる商品が多いです。個別の株も買

▶ Slide.26

分散投資の大切さ



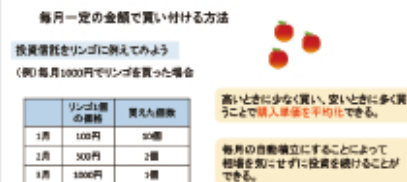
そして分散投資の大切さです。投資信託で運用されることによって、自然と多くの企業や色々な国分散することができます。分散投資って大切ですが、例えば株だとか債券、不動産の REIT を分散する方法もありますし、日本だけでなくアメリカ、先進国あるいはいまインドは新興国と言われている国々の成長も目覚ましいです。そのような地域を分散すること。そして時間の分散も大切です。

分散投資をすることで、大きな損失を避ける効果があります。

是非とも、投資信託みたいなもので始めていただきたいと思います。

▶ Slide.27

ドル・コスト平均法（定額購入法）とは



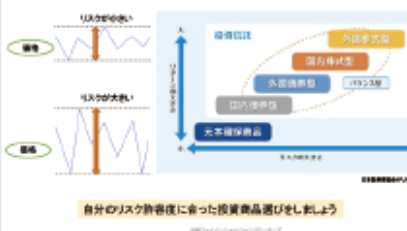
そして「ドル・コスト平均法」ということで、これは毎月積立です。

表は、投資信託をリングで例えています。値段は頻繁に変わり、安い時も高い時もあります。毎月積立の良いところは、高い時に少なく買って、安い時に多く買うことで買う値段を平均化できる特徴があります。

一度に多くのお金を入れないで、毎月積立で、例えば毎月 3 万円、5 万円から運用を始められるといいと思います。

▶ Slide.28

リスクとリターンについて



資産運用は必ずリスクがあります。リスクは投資の世界では危険とか怖い意味ではなく、増えたり減ったりする振れ幅のことを投資の世界ではリスクと言います。

リスクが小さいってことはどういうことかということ、お金が減る可能性が小さいけど逆に増える可能性も小さいことなのです。例えば預貯金なんかは元本割れしませんが、お金はほとんど増えない。つまり、リスク、リターンは小さい。

それに対して株はリスクもリターンも高いので、ある程度お金を増やしたいならリスクをとって株や債券に投資する必要があります。これは自身のリスク許容

度ということで、どのぐらいお金が増えて欲しいのか、あんまり増えなくてもいいからなるべく元本割れしたくないで、自身がどれだけリスクをとれるのかで商品を選べると良いと思います。

▶ Slide.29

資産形成で大切な考え方



資産形成で大切な考え方、3 つあります。まず「長期投資」で、10 年以上積み立てる気持ちで始めるとこと、そして「分散」です。一つに投資するのではなく、投資先はやはり色々分けた方が良いでしょう。そして毎月コツコツ投資、「積立投資」です。この3つが大切です。

資産形成は他にもやっぱり慣れることが大事です。元本割れするのが不安だからなかなか始められない方も、是非とも小さい金額から始めて、これぐらいの金額だったら株価が大きく下げて半額ぐらいになっても自分としてはダメージがないかなと思う金額から始めて、コツコツ長く続けていくことが大切だと思います。

▶ Slide.30

まとめ ゆとりある暮らしは3つのステップで



まとめです。ゆとりある暮らしを送っていただくためには3つのステップがあります。

1 つ目が、お金の計画。まず短期の計画、毎月の家計管理。そして中長期でいうとライフプラン設計です。

2 つ目が、必要資金を準備すること。そのためには長く働く、家計の見直しです。

3 つ目が、準備するのが難しいなら資産形成です。NISA や iDeCo。将来お金に困らないように国も税金をとらない資産形成できる制度を用意しています。是非このような制度を使って、ゆとりある暮らしのためのステップを踏んでいただきたいと思います。ゆとりある暮らしのためのライフプラン設計と資産形成についてお話しさせていただきました。

ご清聴どうもありがとうございました。